

会 議 録

会議の名称	令和2年度 第2回小牧市市民活動促進委員会				
開催日時	令和2年7月3日（金）午後1時30分から午後3時まで				
開催場所	小牧市役所本庁舎 404会議室				
出席者及び 欠席者	<p>○出席者</p> <p>【委員】 秦野委員長、三島副委員長、戸成委員、竹中委員、古谷委員、秋田委員、星野委員、大木委員、舟橋委員</p> <p>【事務局】 伊藤支え合い協働推進課長、大塚市民協働係長、高橋主査、松永、関市民活動センター事務局長、山本事務員</p> <p>○欠席者</p> <p>【委員】 小林委員</p>				
傍聴の可否	■可 □否	傍聴定員	5名	傍聴人数	0名
会議次第	<p>【内容】</p> <p>1 開会</p> <p>2 議題 (1) 令和元年度実施協働提案事業実績報告について (2) 令和3年度実施協働提案事業ヒアリングについて</p> <p>3 その他</p>				
問合せ先	小牧市役所 支え合い協働推進課 市民協働係 電話番号 (0568) 76-1629 (直通) ファックス番号 (0568) 75-8283				
会議内容	別紙参照				

会 議 内 容

1 開会

2 議題

(秦野委員長)

それでは、まず議題に入る前に、本日の議題（２）「令和３年度実施協働提案事業ヒアリングについて」、会議の公開・非公開について、委員の皆様にご意見を伺いたいと思う。ご意見はあるか。

(戸成委員)

公開ヒアリングにあたっての具体的な審査内容や当日の質問事項等を議論するため、非公開が望ましいのではないか。

—異議なし—

(秦野委員長)

委員の同意も得られたので、議題（２）「令和３年度実施協働提案事業ヒアリングについて」は非公開とする。

それでは議題に入る。

(１) 令和元年度実施協働提案事業実績報告について

※資料に基づき事務局より説明

(秦野委員長)

当日の手順に関してはよろしいか。何かご指摘などあれば発言いただきたい。

(三島副委員長)

小学校区別交通安全マップ作成事業について、小木小学校区のマップが作成でき、令和元年度で事業終了であるが、この経験を活かして他の区では事業を行わないのか。「ニーズの精査ができていない」と書かれているが、どのような感覚だったのか。

(事務局)

マップの作成にかなり苦労されたと聞いており、次年度に結び付かなかったように感じている。ただ、これは道路課と爽調会が協働で小木小学校区のマップを作成したのだが、小牧市は現在、地域協議会という小学校区単位の新しい地域自治組織の設立の整備を進めている。昨年度、光ヶ丘小学校区地域協議会が地図のゼンリンの協力を得て、交通安全マップを作成した事例がある。やはりその地域の道路事情というのはその地域に住まわれている方が一番よく知っていると思うので、今後は地域協議会で作成していくと良いのではないかと考えている。地域協議会の事業として支え合い協

働推進課から事業の交付金を出しているの、その費用を支出していけたらと考えている。

(舟橋委員)

行政提案型“はばたき”の学生ときめきレシピを使っておしゃれに作って食べる料理教室の協働団体である小牧市生活改善実行グループ連絡研究会は食生活、ヘルスマイトのグループだと思う。

(事務局)

名前が似ているが、ヘルスマイトの団体は小牧市食生活改善協議会として保健センターで所管している団体である。今は所管が変わったが、もともと農政課の食育サポーターなどがこの協働団体ではないかと思う

(舟橋委員)

農政課からの団体への費用は補助金が出て、そのオリジナルの活動にさらに行政提案型“はばたき”として出したという状況なのか。

(事務局)

団体の運営費の補助は出ていない。事業費を委託という形で出ている。

(舟橋委員)

そうすると、この団体の料理教室以外のオリジナルの活動は手弁当で行っているということか。

(事務局)

恐らくそうだと思うが、把握していない。当日団体の代表者もいるのでそのあたりも聞いていただければと思う。

(秦野委員長)

一つ確認である。協働に関する評価で担当課と市民活動団体、両者とも「できた」「少しできた」など評価をいただいているが、一見するとほぼ同じ意見である。きちんと別々に評価をしたという解釈をして良いか。

(事務局)

書類は担当課と団体には別で送付したが、その後、評価を一緒に集まって行ったかまでは分からない。ただ、それだけこの3事業については仲良く行えたのではないかと感じている。もともと評価シートを導入した理由はずれを見つけるためである。これが通常の良い例だと思う。本当はずれがあるとそこから掘り下げられるが、今回は良い意味でずれがなかったのではないかと思う。

(秦野委員長)

ずれがないので、どのように評価をしたのかと思った。

(古谷委員)

今のずれの話だが、本来はずれがあった方が良くと思う。お互いに協力し合いながら事業を行っていくという立場から見ると評価をする際にも一連の協議をして、その中でお互い良い意味での自己反省をして、それを次の事業に結び付けることが大切だと思っている。今回どのように評価をされたか分からないが、私はそのようなことを見ていきたいと思う。

(星野委員)

評価が偶然一緒なのは良いが、「評価した理由について記入して下さい」という欄も行政と市民活動団体で一言一句同じである。果たして良いのか。今の話でずれていることが正しいのであれば、表に出てしまうとおかしいという話になってしまうと思う。

(秋田委員)

使っている言葉が同じであることが気になる。同じ内容でも人によって違う言葉を使ったり、言葉の順序が違ったりすると思うので、行政が作ってしまったのかなと思った。もし話し合っただけで作ったとしても、その時に出てきた言葉を大事にした方がその団体の個性が読み取れ、この記入欄にその団体自体の考え方が出てくると思うので、それが見えてこないのがとても残念である。

(秦野委員長)

協働の意識を確かめるという意味できちんと個別の自分たちの判断で評価をした形にさせていただいた方が良くのではないかと思うが、いかがか。

(古谷委員)

この様式自体が本当はそのとおりだと思う。わざわざ最後に備考欄というか「左記のように評価した理由について記入して下さい」という欄があり、しかも工夫した点や反省点などを具体的に踏まえてと記載がある。すり合わせをして互いの評価を同じにするのは良いが、それを表現する場合は当然違った表現がされるべきだと思う。今回これがそのまま提出されているが、今後についてはそのあたりをよく指導して自分たちの行ったこと、評価をアピールしてもらわないといけないかと思う。

(秦野委員長)

まだ少し日があるが、このままの書類で審査を行うか。

(星野委員)

テキストが全く一緒だとそれ以前の評価も信頼性が疑われる。実は行政が指導していたということだと信頼性が損なわれてしまうので、むしろ表に出る前に今なら直し

てもらった方が良いのではないか。

(秦野委員長)

今、星野委員から提案があった。18日の審査までにもう一度自分の視点で書き直してほしいという意見だと思うが、いかがか。異議なしといただいた。あと2週間あるのでもう一度この資料に関しては提出をお願いしたいという促進委員会一致の意見である。行政は行政サイド、団体は団体サイドでこちらの協働の評価をしていただき、本当に思うところをきちんと書いていただく。期限についてはその場の審査の時でも良いか。では、審査までに申し訳ないが、再度提出していただくように促進委員会として要望する。

(事務局)

この評価チェックシートが団体のところに届いた時、恐らくどのように書けば良いのかと行政に相談したのではないかと思う。今回は書き直していただくが、中期的な話として団体に自分たちの事業を評価できるようなスキルを育成していく必要があると思った。市民活動センターがそのような講座をしても良いのではないかと思った。

(秦野委員長)

自分の事業の評価をどのように行うのか非常に難しいと思う。第三者の目で見るとも大切なので今の意見を受けて、できれば市民活動センターで評価に関する講座の開催、評価に対する指導をするなど協働事業が進む段階においてお願いしたい。

(事務局)

団体は公益というのになかなかなじみがないと思う。この事業に関する評価というのは初めて見た方にとっては難しいのではないかと思う。そのあたりの指導もお願いしたい。

(星野委員)

答えられないなら答えられないのが価値だと思う。全ての項目が書いてあるが、書いてない欄があることが普通ではないかと思う。分からないところ、丸が書けないところがあると私たちにダイレクトに悩んでいるところが伝わる。優等生的な評価ではなく、まずは正直に書いてもらうことが大事だと思う。

(秦野委員長)

評価チェックシートは再度提出をお願いします。また、今後の評価の指導については市民活動センター、担当課で話し合いながら今の星野委員の意見も踏まえて行く形をとっていただく。協働に関する評価については以上とする。他にこの3事業に関して、気になった点はあるか。

(秋田委員)

学生ときめきレシピを使っておしゃれに作って食べる料理教室についてだが、はじめに提案された時、もう少し料理教室の回数が多かったはずである。報告書を見た時、1年で6回かと思ったら3年で6回行って、最初の提案と全然違っている。「参加者を集めるのが大変だった」と書かれているが、その割には評価が「できた」ばかりというもおかしいのではないか。毎月行うという話だったのに年に2回しかできていない。年々下がっていったというのは分かるが、3年間に6回しかできていないのに評価が高いように感じる。ただ、評価チェックシートの項目にそのような評価の部分だけなかったからかもしれない。

(秦野委員長)

「できなかった」という評価だったら納得できるが、そのようになっていない。計画と実際の内容の整合性がとれてないという意見である。このあたり事務局として気づかれたことはあるか。

(事務局)

行政提案であるため、農政課から提案があった。確かに当時の事業スケジュールを見ると毎月1回開催となっているが、その後に小牧市生活改善実行グループ連絡研究会から提出された協働事業提案書の事業スケジュールを見ると第1回、第2回と開催を2回に変えている。最初に農政課が提案した時には毎月1回ぐらいの頻度で開催したいとのことだったが、応募された小牧市生活改善実行グループ連絡研究会が開催できるかというとその団体の体力にもよるので、2回が精一杯だったのではないかと思う。趣旨採択した後に両方で協議をして2回になったのではないかと思う。それに伴い、予算も50万円ぐらいが24万円ぐらいになっている。評価チェックシートを見ても「会員の負担が大きい」と書かれており、オーバーワークになってもいけないので、両者協議の上で決定したのではないかと思っている。

(秦野委員長)

当時の審査は料理教室を2回開催ということで行っているのか。

(事務局)

そうである。審査の段階では農政課の事業概要書、応募団体からの協働事業提案書を見て審査を行っている。

(秦野委員長)

結局2回開催にあわせて予算も削られている。

(事務局)

最初から事業を何回行うかまでの審査はせずに事業の趣旨採択として審査していただいているので、その後に予算や団体ができる量、行政が予算化できる金額などを両方で決定していく。

(秋田委員)

その割には出した予算に比べて実際の支出が高いのではないかと思います。

(事務局)

もう少しできなかったのかというふうに聞いていただくのも良いと思う。

(古谷委員)

小学校区別交通安全マップ作成事業について、うまくいけば非常に効果のある活動であると思う。その効果のある活動の効果の部分が地図を作成して貼ったということが書かれているが、この地図が普及したことによって事故が減ったなど、事故が減らなくても例えば、帽子をきちんと被るようになったなど何かそのようなところが出てくるとこの事業は非常に有効だと分かり、さらに継続できるのではないかと考えた。そのあたりはどのように出ているか。

(事務局)

他の事業でも言えることだが、「何ができた」ということが行動指標、アウトプットになっている。やはりそこで実質的な成果がどのようなものであったかを本来であれば記載すべきである。記載されていないのであれば、聞くべきであると思う。地図を貼ったことが効果ではなく、貼ったことで交通事故が何件減ったか。実績報告後にヒアリングもあるが、指標についてアドバイスをいただけると良い。

(竹中委員)

引き続き小学校区別交通安全マップ作成事業の評価について、当初では交通マップを350枚配布する予定だったが、結果的にポスターの掲示になった。そのあたりの編成が重要だと思うが、なぜこのようになったのかが分かりにくいと思うし、評価する上で重要かと思う。事故件数についても妥当な指標だと思うが、上滑り感というか様々な要因があるので、小学生だけを対象にしたものでない統計が指標になっている。そういう意味で、妥当性はあると思うが、適切にこの事業の効果を測れる指標なのかという感想を持った。

(秦野委員長)

古谷委員と近い意見かと思うが、指標を測るにはポスターを掲示するだけではなく、どのような効果があったか。それについては何か事務局としては聞かれているか。

(事務局)

この事業に関してはないが、チラシからポスターに変えた理由について聞かれるのが良いと思う。成果指標の設定の時に相談を受けた記憶がある。なかなか事故件数以外で設定するのが確かに難しい事業ではあった。マップを見てこの辺を気を付けるようにしたなど感覚的なものはなかなか難しい。逆に何か良い指標があればアドバイス

をしていただけると非常に助かる。

(秦野委員長)

この件に関して皆さん思いつく様々な指標や活かし方、連携のとり方などについて聞いていただくとともにアドバイスをお願いしたい。

(事務局)

この事業に限ったことでなく、他の事業にもさらにヒアリングの3事業については今後実施していくことになるので良い指標があればお願いしたい。

(秦野委員長)

スピーチコンテストは継続されるので、次のヒアリングでよろしいか。では、実績報告について皆さんから意見をいただいた。また、評価チェックシートについて宿題にしたのでお願いします。

(2) 令和3年度実施協働提案事業ヒアリングについて **非公開**

3 その他

- ・令和2年度小牧市市民活動助成金について事務局より説明
- ・小牧市市民活動センターアウトリーチ支援事業の実施報告について関市民活動センター事務局長より説明
- ・こまき市民交流テラス整備の進捗状況について事務局より説明

(戸成委員)

最後に今回の新型コロナウイルス感染症により小牧市に住所のあるNPOで事業継続に影響が出た団体を把握されているか。影響が出た団体はあるのか。

(事務局)

把握していない。

(戸成委員)

逆に言えば幸なのか不幸なのか分からないが、要するに専従職員を抱えて事業を行っているNPOがないということになるのか。

(秦野委員長)

そのようなNPOはある。このあたりの状況について専従職員に対してどこまで保障が出るかが国で結構あいまいだったが、確か職員に対する補償が出るという判断になったはずである。ただその後の活動がどうしても停滞しているため、収益などもかなり影響が出ているはずである。これが私どものネットワークでも状況はあまり把握

していない。

(三島副委員長)

ボランティアネイバーズでは県内のNPO・任意団体に調査をし、「活動を休止した」の回答は7割以上である。ただ、事業収入がどれだけ減ったかという把握はしていない。

(戸成委員)

全国的には新型コロナウイルス感染症に関する緊急の対策をとっているところもある。小牧市の場合はそのような団体があった場合、何か考えるのか。考えない場合でもとりあえず実態は把握するべきではないかと思う。

(三島副委員長)

資金的以外にも人材の問題も色々あると思う。他市では団体内のコミュニケーションや交流活動にどのような影響が出て、それに対して何か支援する必要性が生じているかという調査を団体に行ってはどうかと話が出ている。登録団体にそのようなことを把握していくことは必要かもしれない

(事務局)

今、戸成委員からご提案のあった内容については事務局で検討し、必要に応じて調査、把握をする。申告するのであれば何らかの救済措置、支援策も検討していかなければいけないと思う。